

平成 29 年度

『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくり
とブランド化事業（禅ブランディング事業）
自己点検・評価報告書

平成 30 年 5 月

駒澤大学禅ブランディング
自己点検・評価実施委員会

総括

●5ヶ年の事業内容・目標

現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

2017年度は、学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディング事業を所管する学内組織の設置準備や社会への広報活動を行う。

●今後の計画

2018年度はシンポジウムを開催し、研究成果の公表を行う。また、研究成果の発信について曹洞宗寺院と連携体制を構築する。2019年度は研究成果の波及対象に対して、成果の波及や実践を行う。また、ジャパン・ハウスとの連携体制の構築を行う。2020年度は国際シンポジウムを開催し、本事業の研究成果を全世界に発信する。また、ジャパン・ハウスと連携し、禅（ZEN）の海外発信拠点を整備する。

●活動報告（2017年4月～2018年3月）

①研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）による研究活動として、会議・研究会を合計30回程度行い、成果物としてHP用コンテンツを約15件作成した。禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業ホームページを作成・公開し、HP用コンテンツ8件を掲載した。

②禅ブランディングメンバー向け勉強会4回、学内向けイベント6回、外部向けシンポジウム1回を催した。

③事務運営では、研究活動推進委員会4回、禅ブランディングプロジェクトチーム会議4回、チームリーダー連絡会26回を行い、事務所管として、禅文化歴史博物館内に禅ブランディング推進係を新設し、研究チームの支援体制を整えた。

2017年度初段階では研究3チームと発信チームの4チームによる構成であったが、新たに源流チームが加わり、研究活動を拡充させた。

○自己点検・評価（2017年4月～2018年3月）

①各チームによる研究も進み、その成果を公開するHPも完成したが、現状ではコンテンツの少なさを課題であると認識している。

②禅ブランディング事業参加教員や学内向けの勉強会・イベントを多く開催したが、外部向けのイベントが少なかったことが課題であった。

③禅ブランディング事業に対する事務支援体制の整備を進めた。また、チームリーダー連絡会を定期開催により研究チーム間の情報共有を図り、研究活動推進委員会、禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催により学内全体への当事業の取り組み周知に努めた。

○将来に向けた発展方策

当事業の認知度を高めるため、魅力的な情報発信を行っていく。具体的には、コンテンツの基礎となる研究活動を充実させ、ホームページ等で公開し、また、外部向けイベント・企画を積極的に行い、メインターゲットである本学学生、受験生をはじめとする社会一般の興味・関心を高めていく。

新設する禅ブランディング推進係を中心に当該事業の事務的サポートをより充実させていく。また、内部における当事業への認知度を高める取り組みを引き続き行っていく。

曹洞禅とその源流研究チーム

代表者	仏教学部	角田泰隆
メンバー	仏教学部	池田練太郎、石井公成、佐藤秀孝、程正、徳野崇行、山口弘江

●5ヶ年の事業内容・目標

5ヶ年の事業内容・目標

①曹洞禅の源流を求めて…曹洞禅に至る禅の流れ

禅系三宗の一つである曹洞宗の大学として出発した駒澤大学。禅の源流は、古くインドに遡る。曹洞禅とその源流研究チームでは、インドの禅が中国に伝播し、中国的に展開し、それが中国宋代に入宋した道元禅師によって日本に伝えられ、瑩山禅師によって全国に広まった、歴史と思想を研究する。

また、これらの研究において重要な歴史的文献や、近現代の主要な著書や論文も紹介する。駒澤大学を中心とした禅学および宗学の研究史を明らかにし、それらの研究を概観できるようにして、本学の学生のみならず、広く内外の研究者や一般の人々にも役立つようにしたい。

②坐禅作法の研究

道元禅師が伝来した禅の中心的修行である「坐禅」について、曹洞禅における坐禅の意義を明らかにし、さらにはその作法について、坐禅に関する文献に基づいた研究を行う。

③他チームとの連携

他チームの研究に協力し、また他チームが研究し発信する内容について、曹洞禅の視点による助言を行う。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

曹洞禅に至る禅の流れについての概説を作成した。具体的には、元駒澤大学総長、鏡島元隆博士（1912-2001）の研究に基づく「禅の歴史」を公表する。鏡島博士は1942年より1992年に至るまで駒澤大学仏教学部で教鞭を取られ、禅学・曹洞宗学の分野において多くの優れた研究業績を残された碩学であり、殊に道元禅師の著作における引用経典・語録の研究ではこれまでの出典研究を大きく進展させ、1961年に「道元禅師と引用経録の研究」で文学博士号を取得されている。鏡島博士は、伝統的・信仰的な宗学（これを「伝統宗学」という）から、近代の学術的研究方法論を取り入れた宗学へと発展させ、その手法の新しさからその宗学は「鏡島宗学」とも称されている。公表する予定の講述は、約40年前に鏡島博士が仏教学部において担当されていた「禅学概論」での講義を、当時授業を聴講した現仏教学部教員が筆録したものであり、その第1章（第2章は「禅の思想」）にあたる。約40年前の研究結果あり、その後の学術的研究の進展において修正すべき点もあるが、この講述は、これまで曹洞宗に受け継がれてきた伝統的な禅宗史を要領よく概説したものであり、道元・瑩山両祖において受け捉えられていたであろう禅の歴史を理解するための恰好な、禅の歴史の概論といえる。「曹洞禅とその源流研究チーム」（以下、源流チーム）では、まず、インドの釈尊から日本の曹洞宗に至る伝統的な禅の歴史を知っていただくための資料として、鏡島元隆博士講述「禅学概論講義ノート」（第1章 禅の歴史）を、ほぼそのままのかたちで公開する。その準備を行う。

●今後の計画

2018年度は、鏡島元隆博士講述「禅学概論講義ノート」を順次公開しながら、「インドにおける禅」、「中国仏教における禅」、「中国唐代の禅」「中国宋代の禅」「日本の曹洞禅」「日本における曹洞宗の展開」等について研究し、それを学内において講演というかたちで随時公開し、ホームページにおいても公開していく。同様に、「禅と心」の研究においてもZENの登場と心の探究をテーマにした、研究およびその公開を行う予定である。坐禅作法の研究では、「インドにおける坐禅」、「中国天台関係文献に見られる坐禅」「中国禅宗関係文献に見られる坐禅」「臨済宗関係文献に見られる坐禅」、「曹洞宗関係文献に見られる坐禅」等の研究を行い、これらの研究成果についても随時公開していく。

●活動報告 (2017年4月～2018年3月)

※源流チームは2017年9月に新たに設置されましたので、2017年9月～2018年3月の活動報告となります。

◎会議等

2017年9月10日 プロジェクトリーダーと打ち合わせ。事業についての説明をうける。

9月7日 チーム会議。源流チームを結成し、今後の事業について意見交換を行う。

9月19日 チーム会議。コンセプトムービーの視聴およびホームページ構成の概要について説明を受ける。

10月23日 チーム会議。チームの今後の事業について協議する。

11月8日 キャッチコピーについて発信チームと協議。

11月27日 チーム会議。キャッチコピーについて。

2月11日 チーム会議。ホームページ公開原稿について。

3月5日 チーム会議。H29年度ブランディング事業年次報告書の作成について。

◎研究・作業等

2017年12月～2018年1月 ホームページに公開予定の鏡島元隆講述「禅の歴史」の作成・確認作業。

○自己点検・評価 (2017年4月～2018年3月)

① 源流チームは2017年9月より新たに設置され、他チームよりスタートが遅れたため、2017年度は十分な活動が出来たとは言えない。また、その影響もあり、禅ブランディング事業のプロジェクトチームと、この事業に密接に関わる仏教学部等との連携が充分にとれていなかった。

② キャッチコピー（案）に関して、他チームとの意見の相違があり、事業の進捗に支障を来したが、そのような中でもWeb公開に向けた研究を進めることができた。

○将来に向けた発展方策

① 源流チームの事業は、仏教学部等と密接に関わっており、今後、事業内容を仏教学部等に周知させ、協力を仰ぐ体制を整えていく。そのために、仏教学部定例教授会において源流チームリーダーが、禅ブランディング事業に関する報告を行い、必要に応じて助言を得るなど、連携体制の構築に臨む。

② キャッチコピーについて、他チームとの合意が得られたため、今後は他チームとの連携を強化し、本学のステークホルダーである学生や教職員を対象とした講演や、源流チームがなすべき研究活動を活発に行い、それらの成果を禅ブランディングホームページへ掲載する予定である。

禅の受容と展開研究チーム

代表者	仏教学部	飯塚大展
メンバー	仏教学部	奥野光賢、岩永正晴、程正、村松哲文、大澤邦由
	文学部	田中徳定、近衛典子、モート、セーラ
	学外協力者	永井政之（本学仏教学部名誉教授）、堀川貴司（慶応大学斯道文庫教授）

●5ヶ年の事業内容・目標

高度な中国文化である禅が、院政期以降、日本社会においてどのように受容されてきたのかを研究する。各時代における禅僧の活動、禅宗寺院のありかたを通して、禅が日本社会に及ぼした影響を考察する。鎌倉時代末から南北朝期に成立した五山、周縁的存在であった林下、その歴史的展開を踏まえ、多様な禅僧の活動に注目する。特に、戦国期以降、日本語による教義問答、その理解に基づく禅の言説に焦点を当て、日本的受用を明らかにする。江戸時代における禅籍の出版、注釈史的研究を行う。

禅の影響を、文学や芸能、美術など、日本文化の中に見出す試みを行う。

コンテンツ作成に特に力を注ぎ、禅語解説（禅僧の言葉、公案など）、禅僧の紹介、頂相・墨蹟の解説などを行い、『新纂禅籍目録』のデータベース作成を通じて、本学の所蔵する禅籍を紹介する。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

- ①聖教（禅籍）に関する研究は『新纂禅籍目録』データベースの作成を進め、年度内にデータ入力を終了し、校訂作業を開始する。
 - ②禅籍抄物史料データベースの作成は、外部機関との連携交渉を進め、建仁寺・両足院、各地の曹洞宗寺院での調査・撮影を年10回行う。
 - ③禅における近世は、研究活動を進める一方で、他の研究チームや学内外へ向けた禅に関わる勉強会・研究会等を年10回開催する。
 - ④禅と文化は、禅と文学、禅と芸能に関する研究活動を進めると共に、頂相と墨蹟（遺偈）のデータベース化に向けた研究会を年5回開催する。また、資料調査・撮影を年5回行う。
- ※その他、禅文化歴史博物館と共催で坐禅会を年10回開催（月2回、朝・夕各1回）する。

●今後の計画

2018年度は

- ①は、2018年度末～2019年度初の『新纂禅籍目録』データベース公開を目指し、11月を目処に運用準備を整え、12月から試用期間（ランニングテスト）を行う。
- ②④は禅籍抄物史料データベースの作成は2018年6月を目処に中間報告を行う。
- ③は、研究活動を進める一方で、他の研究チームや学内外へ向けた禅に関わる勉強会・研究会等を年8回ほど開催する。

2019年度は

- ①は、学外機関との連携を進め、データベースの拡大・充実を図る。
- ②④は外部機関との連携、資料調査・撮影を更に進め、データベースの一般公開に向けた事務手続きを進める。

③は研究活動を進める一方で、他の研究チームや学内外へ向けた禅に関わる勉強会・研究会等を開催する。

2020年度（最終年度）は

①～④はシンポジウムでの成果報告並びに WEB・冊子態での成果報告の作成

②④はデータベースの一般公開を行う。

※その他、各年度において禅文化歴史博物館と共催で坐禅会等の禅と関係するセミナーを開催する。

●活動報告（2017年4月～2018年3月）

①『新纂禅籍目録』データベース作成に関する打ち合わせを計7回開催。19,813件のデータ作成（エクセルベース）と校訂作業を実施中。対象とする禅籍のうち本学図書館所蔵分について図書館からデータ提供を受けた。

②禅籍抄物史料データベースの作成は、建仁寺両足院・長年寺・双林寺・西福寺への調査を計14回実施。両足院調査においては切紙資料等の撮影を5,800件強実施。

③禅における近世は6月に岩永正晴氏による計3回の連続講座を開催。

④禅と文化は、頂相研究会を発足させ、計7回の研究会を実施。成果として5件のHP用コンテンツを作成。

禅と文学は、近衛典子氏によるHP用コンテンツ1件の作成のほか、禅文化歴史博物館とのコラボ企画「栃木の古刹・大中寺と仏教史跡をめぐるバスツアー」にて近衛氏による「上田秋成と大中寺」に関する講義を実施。

※源流チームと共に禅文化歴史博物館に協力し、坐禅とお粥の会を3月9日（金）に実施。

○自己点検・評価（2017年4月～2018年3月）

①は図書館データとの統合作業を進めているが、異なるシステム・DBに存在するデータであるため、作業負担が大きい。将来的なデータシェアを見据えた改善策を模索中である。

②は当初計画通り、撮影作業を進める一方で、撮影画像等のHP等での公開の許諾申請を当該寺院と進めている。2018年度以降のHPコンテンツへの活用などを視野に当初計画以上の成果を得た。

③は3回の講演会に計90名ほどの参加者を得た。ただし、研究者以外の参加者からは内容がやや難解との指摘もあった。

④頂相に関する研究成果・HP用コンテンツ、禅と文学に関するHPコンテンツを作成したが、公開には至らなかった。

○将来に向けた発展方策

①本DBの将来的な拡張を見据え、本学内に存在する図書館所蔵資料・博物館資料・大学史資料・アーカイブズ史料など複数のDBを横断的に検索可能な検索窓口やDBシステムの構築等を検討する。

②2018年度以降、研究成果のHP等での公開を随時進めて行く。

③新たに加わった源流チームとも協力し、一般の参加者を対象とした講演会とその内容について、検討を進めて行く。

④2018年度以降、HPを中心に成果を公開していく。

※坐禅とお粥の会については、本年度は学内調整等の要因により3月9日（金）の1回の実施であったが、源流チーム、禅文化歴史博物館との連携により、2018年度は年3回の実施を予定している。

禅による人の体と心研究チーム

代表者	医療健康科学部	名古屋安伸
メンバー	医療健康科学部	吉川宏起
	文学部	鈴木常元、茅原正、谷口泰富、荒井浩道、久保尚也、小室央允
	経済学部	松井柳平、江口允崇、曾我信孝、矢野浩一、井上智洋、増田幹人、鈴木伸枝、舘健太郎、西村健
	総合教育研究部	鈴木淳平
	学外協力者	瀬尾育式（医療健康科学研究所 顧問）、田中仁秀（曹洞宗総合研究センター）

●5ヶ年の事業内容・目標

近年、世界的に禅が注目されているようです。これは現代社会が急速に変化することから生ずる「心の問題」にあるのではないのでしょうか。禅の教えに「身心一如」ということばがあります。身体と心は常に一体で、切り離すことはできない。という意味です。私たちは、「坐禅」が人の体と心にどのような効果をもたらすのか、科学的に分析し研究を進めています。

「坐禅」を科学的に捉える方法として、脳波測定や、磁気共鳴画像 (MRI ;Magnetic Resonance Imaging) があります。坐禅による体と心の変化を数値または画像で表すことができないか研究しています。また、坐禅が人のストレスやメンタルヘルスに与える影響について、その因果関係を客観的なデータから科学的に検証することを目指します。そして、坐禅の観点から、現代人が抱えている心の問題に提言することができればと思います。

今、私たちは先行研究の整理と実地調査を行っているところです。坐禅の姿勢と呼吸はどのように関係するのか、科学的データの蓄積と分析を進めているところです。そして、今後さらに「曹洞禅とその源流研究チーム」、「禅の受容と展開研究チーム」と連携して研究を進めていきます。このページではその結果をお伝えしていきたいと思っています。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

6月～8月：禅の知識について、理解を深めるための勉強会を行う。歴史的な系譜や坐禅の意義について、本学仏教学部の先生からご指導頂き、チームメンバーが坐禅会に参加し、実践的な体験をすることで、禅に対する理解度の向上を図る。

9月：ランダム化比較実験の外部協力者を招いた会合を開き、ランダム化比較実験の解説をして頂いた上で、研究のデザインとスケジュールについて相談する。

9月～12月：駒澤大学の坐禅会の参加者を対象に、作業効率のテストやストレス状態のチェックを行う。

1月～3月：学生を対象として正しい指導のもとで坐禅会を開催し、同様の試験を行う。

●今後の計画

2018年度は2017年度までの研究成果を元に、禅（ZEN）プログラム（個人を対象とした心理療法や企業を対象としたセミナープログラム等）を検討・構築し、シンポジウムにて発表する。

2019年度は①個人や企業を対象に禅（ZEN）プログラムを実施する。本プログラムは、駒澤大学のみならず、曹洞宗両本山や連携する寺院等においても開催し、広く社会へ普及するよう努める。②本学の学生教育の一貫として、禅（ZEN）プログラムを実施し、駒澤大学生のアイデンティティの形成につなげる。

2020年度（最終年度）は開発したセミナーや講座等のプログラムを実践し、本学の教育や社会に波及させる。また、現代人が抱えている心の問題について、学術雑誌への掲載をし、研究成果を発表する。

●活動報告（2017年4月～2018年3月）

①坐禅の科学的分析を行うための測定方法を検討するため、坐禅時を想定した呼吸法の違いによる学生の卒業研究と絡めたfMRIによる腹式・胸式呼吸による測定結果の差異の調査を行った。

②本年度9月より文学部心理学科の新メンバーが加わった。これまでの禅心理学に関する研究を総括した上で、今後の本事業における「禅と心」研究の在り方・進め方を検討するため打ち合わせを計2回行った。HP用コンテンツ1件を作成した。

③データの分析方法検討のため、A. 勉強会『禅の効果に関するランダム化比較実験の研究デザインについて』（2017年6月22日（水）於本学第2研究館5階会議室、講師：津川友介先生〈ハーバード公衆衛生大学院〉）、B. 講演会『原因と結果の経済学～因果推論の禅の科学的効果への応用に向けて～』（日時：2017年9月1日（金）於本学中央講堂、講師：津川友介先生〈ハーバード公衆衛生大学院〉）を行った。

○自己点検・評価（2017年4月～2018年3月）

①MRIを用いた分析については未だ実施出来ていない。装置選定を含めた研究方法を改善する必要がある。

②今年度9月より、新たに文学部心理学科からもメンバー参加のご協力をいただき、構成員の充実と共に禅心理学に関する知見を得た。

③勉強会や講演会を開催したことで、禅の精神的影響についてその分析方法と理解に努めることができた。

○将来に向けた発展方策

①装置選定を含めた研究方法を検討すると共に、被験者や測定方法など源流チーム角田先生にも協力いただきながら進めて行く。

②③2018年以降は、今年度の勉強会、基礎実験などで得たことを基に実験データを収集し研究を進めて行く。そして、学内報告会、シンポジウムの開催を目指し、また、禅ブランディングホームページへの掲載も随時していく予定である。

禅と現代社会研究チーム

代表者	経営学部	青木茂樹
メンバー	仏教学部	飯塚大展
	文学部	久保田昌希・廣瀬良弘
	経済学部	長山宗広
	経営学部	小野瀬拓、兼村栄哲、菅野沙織、中野香織、中村公一、若山大樹
	GMS	各務洋子、山口浩
	法科大学院	日笠完治

●5ヶ年の事業内容・目標

禅（ZEN）と社会制度の研究 においては、今日的な禅の世界的な流行、およびその応用として企業や医療、健康などの分野に広く広まっていることについて、各々の専門分野の関心から紐解くことを目途としている。そのためには、①中世の日本において、禅（ZEN）が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること、②現代の社会制度に求められる経営理念や経営者の意識、ダイバーシティ、サステナビリティ等の思想やその実践に、禅（ZEN）がどのように活かされるかを検討すること、③禅（ZEN）の観点から、現代人が抱えている心や社会制度の問題に提言をすることに関わる研究を個々人が進める。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

A) 視察PJ：知見を広める。

禅（ZEN）を中心に事業展開をしている国内外の機関（大学、研究所、博物館、心理カウンセリングやコンサルティング、医学、アート、飲食、寺院など）を視察し、セミナー参加や体験、講演などを通じて、古今東西の禅（ZEN）を体感し、議論する機会をつくることで新しい知見を得る。

隔月程度での、1)機関への視察、(2)主宰者側と我々との意見交換会、(3)各自の視察報告書の提出をルーティンとする。

B) 学際研究PJ：個人研究を深める。

A) に参加し知見を深めながらも、別途、個人研究を進めていく。研究内容については、チームでの学際研究報告会にて一人年1回程度の報告を行い、多様な専門家の意見を聞くことでインターディシプリナリー（学際的）な研究を進める。学際研究PJには、個人研究を担当しないPJメンバーも社会制度以外のメンバーも参加できる機会をつくる。

C) フォーラムPJ：成果を公表する。

A)、B)の研究成果を踏まえ、年度内にフォーラムを実施する機会を企画する（2016年度は除く）。

D) 出版PJ：成果を公表する。

最終事業年度までに、A)、B)の研究を通じた出版等を計画する。

●今後の計画

2018年度は、禅思想と社会制度について、禅（ZEN）と社会制度の研究 中世から近世の禅（ZEN）について、学外の連携機関と交流を深めつつ、社会制度の観点から本格的な調査研究を行う。視察および各自の研究と学際研究会を進め、歴史、資料研究、実態調査を踏まえ、研究成果を中間報告にむけてまとめる。これについては、フォーラムでの発表および出版を予定している。

2019年度は、視察および各自の研究の最終報告への準備と学際研究会を進め、これまでの研究成果を元に、現代の社会制度への応用について検討する。2020年度へ向けてフォーラムと最終発表の準備とし、研究成果をウェブサイトや博物館等での展示も検討する。

2020年度（最終年度）は、フォーラムと出版事業を行う。現代人が抱えている心と社会制度の問題について、研究成果を発表する。

●活動報告 (2017年4月～2018年3月)

A) 視察 PJ :

・2017年8月1日～2日

宗門関係学校教職員研修会(永平寺)へ参加。

駒沢女子大学の安藤嘉則教授による「曹洞宗における教育機関のあり方」に関する講義などを受講。

その他、薬石(夕食)や暁天坐禅の体験、参加者による議論を行った。

・2017年9月2日、3日

国際カンファレンス『Zen2.0』(鎌倉建長寺)へ参加。

藤田一照師(曹洞宗国際センター所長)、スティーブン・マーフィー重松氏(スタンフォード大学)、横田嶺南管長(臨済宗円覚寺)によるパネル・ディスカッションや、荻野淳也氏(SIY(Search Inside Yourself)認定講師)による講演などを受講。

・2017年9月30日～10月1日

「瀬戸内・小豆島リトリートキャンプ」へ参加。

川野泰周氏(臨済宗建長寺派林香寺)による講演を受講し、坐禅(宵禅)やマインドフルな食事を体験。

今村翠氏(Sri Aurobindo Ashram integral Yoga、全米 YOGA アライアンス RYT200 認定指導者)による「ヨガと禅の関係」の講演を受講し、ヨガを体験。

・2017年11月1日

禅文化歴史博物館による「大中寺と仏教史跡を巡るバスツアー 2017」への参加。

太平山大中寺、壬生町立歴史民俗資料館、向陽山常楽寺、下野国分寺跡 下野薬師寺跡などを視察。

B) 学際研究 PJ : 事業計画に基づき、各自がそれぞれの問題意識に沿って、①資料を収集・分析したり、②実態調査を進めたりするなどして、インターディシプリナリーな(学際的な)研究を進めている。また、禅に関する専門家の私的な勉強会に、メンバーの多くが参加し、そこで積極的に質疑・応答するなどして、禅に関する基礎的・基本的な理解に努めている。

C) フォーラム PJ : 2018年1月10日 16:20-18:00に禅ブランディング事業シンポジウム「『禅と心』の学際的国際的研究に向けた視座」を開催。

第1部『禅の国際的展開におけるチャンスと課題』藤田一照氏(曹洞宗国際センター所長)

第2部『「創立者の想い」の襷を現代に受け継ぐ大学ブランディング』榊原康貴氏(東洋大学広報課)

パネル・ディスカッション「組織が持っている資源をいかに広報すべきか～誰に何をどのように～」

参加者数第1部 83名、第2部 74名となった。

D) 出版 PJ : 完成年度に事業の成果として一般書籍の出版を計画している。そのための出版社の検討とともに、書籍の言語(英語で出版するのか、日本語で出版するのか)、内容などについて検討した。本書籍は、現代社会チームにだけ関わるものではなく、禅ブランディング事業全体のチーム横断的な内容とし、世界に発信していくことを課題とするために英語での出版が適しているのではないかということが議論されてきた。

なお、まだ具体的な印刷や執筆が行われていないために予算は執行していない。

○自己点検・評価 (2017年4月～2018年3月)

A) 視察PJ:

①効果

- ・講演やツアーにおける体験により、基礎的な知見を蓄積することができた。

②課題

- ・外部企画によるイベントやツアー、および学内企画への参加がほとんどであり、「禅と現代社会研究チーム」独自の企画が少なかった。
- ・講演やツアー参加が多かったため、視察対象の幅が狭かった。

B) 学際研究PJ: メンバーの多くが、禅に関する基礎的・基本的な理解を共有化・俯瞰化しつつある。

C) フォーラムPJ: フォーラムに教職員、学生、学外関係者の多くの参加を促すことができ、禅ブランディングを周知する機会となった。準備を早めて告知期間を長くしてより多くの参加を促したい。

D) 出版PJ: 書籍のタイトルや内容、出版社に関しては具体的には決まっていないが、おおむね順調な進捗状況である。

○将来に向けた発展方策

A) 視察PJ: 講演やツアーへの参加も増やしていくが、より幅広く禅(ZEN)を中心に事業展開をしている機関の視察を行うことで、対象の幅を広げたい。例えば、禅の考え方を経営や社員教育に活かしている企業や、飲食やアートに応用している機関など。それらの視察結果を、報告書としてまとめ、さらなる知見の蓄積を目指したい。

B) 学際研究PJ: 各自がそれぞれの問題意識に沿って、①資料を収集・分析したり、②実態調査等を進めインターディシプリナリーな(学際的な)研究を行うため、禅に関する基礎的・基本的な理解を補い、メンバー間で共有化し、お互いの研究成果を評価することを目指す。今後も、メンバー間で、ある程度、禅に関する基礎的・基本的な理解の共有化・俯瞰化に努めるとともに、各自が研究の最終報告に向けて研究を深化させる。

C) フォーラムPJ: 禅の理解と大学ブランディングの二つのテーマであったが、双方の興味をうまくつなげて本学のステイクホルダーの参加をより多くよびこめるように実施していきたい。

D) 出版PJ: 書籍のタイトルや内容、出版社に関しては具体的には決まっていないが、おおむね順調な進捗状況である。

- ・書籍出版の目的を明確にするとともに、具体的なテーマの検討を行う。
- ・出版を依頼する出版社に直接打診をする
- ・予算に関しては、平成29年度と同水準を考えている。

禅ブランディング発信事業チーム

代表者	GMS 学部	各務洋子
メンバー	経営学部	青木茂樹、中野香織、中村公一

●5ヶ年の事業内容・目標

1. 禅（ZEN）の情報について、WEB コンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。
2. 禅の（ZEN）の無関心層に向けて、WEB サイトへ導く企画を実施し、また社会へ貢献する。
3. 駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能（ハブ&スポーク）を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。
4. 2020 年の東京オリンピック開催を契機とし、禅（ZEN）を国内外に発信する。
5. 4 チームの研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅（ZEN）研究ブランドを確立する。

●事業計画（2017年4月～2018年3月）

- (1) 2017年3月以降、WEB サイトの製作（採択された業者と企画、製作の開始。）
- (2) WEB サイトを用いた情報発信（業者との企画、ほか）
 - ①動画製作
 - ②本事業のロゴ、キャッチコピー等の作成
 - ③本事業のグッズ開発
 - ④多言語対応（翻訳事業）
- (3) 世界発信に関する様々な企画の発案・検討・実施（業者との企画）
 - ①無関心層を WEB サイトへ導く企画
 - ②禅専門家とのインタビュー企画
 - ③4 研究チームの研究公開企画
 - ④禅に関わる外部組織とのネットワーク（WEB サイトへのリンク）
- (4) マーケティング調査結果を踏まえた分析

●今後の計画

2018 年度は 2017 年度の事業内容（企画等）を継続し、企画内容は随時新しく更新して、WEB サイトの充実を図る。また、世界発信に関する様々な企画は、2017 年度の＜無関心層＞に対する喚起（ATTENTION）に注力した企画から、次の段階へと関心層のターゲットを次第に高度な関心層に拡大する企画を検討する。

2019 年度は 2017 年度、2018 年度の事業内容（企画等）を継承し、随時 WEB サイトの更新を行うとともに、シンポジウムをはじめとした様々な企画を実施する。また世界発信のターゲットを 2018 年度から更に研究者層といった高度な専門家にもアクセスしていただけるような専門的なコンテンツの内容を充実させる。また、両本山を含めた国内の曹洞宗寺院との連携体制の構築を検討する。その他、2017 年度に実施したマーケット調査を再度行い、発信事業の効果を検証する。

2020 年度（最終年度）は、最終年度として、東京オリンピック開催を契機としたグローバルな発信に注力する。5 年間の本プロジェクトの総括として、国際シンポジウムなどを企画し、グローバルなレベルで本事業の成果を発表するイベントを実施する。加えて、5 年間の成果をわかりやすいテキストとして書籍にまとめ、出版する計画である。さらに、前年度に検討された国内寺院との連携体制を踏まえたプログラムの実施や、国外他機関等との連携体制の構築に臨む。

●活動報告 (2017年4月～2018年3月)

(1) 電通との契約→2017年1月に業者を公募し、2月22日書類選考を通過した3社が公募課題に対する提案を発表し、最終的に株式会社電通と契約した。

(2) WEBサイトの製作(電通との企画)については、2017年3月より学内での調整を進めながら製作。

(3) WEBサイトを用いた情報発信(電通との企画、ほか)については、①動画製作、②本事業のロゴ、キャッチコピー等の作成、③本事業のグッズ開発、④多言語対応(翻訳事業)については、2018年度入学式に合わせて準備中である。

(4) 世界発信に関する様々な企画の発案・検討・実施(電通との企画)については、5年計画の初年度、2年度ということから無関心層をWEBサイトへ導く企画/3研究チームの研究公開企画/禅に関わる外部組織とのネットワーク(WEBサイトへのリンク)等の企画を予定していたが、学内調整にやや時間を要している。

(5) マーケティング調査結果を踏まえた分析

調査は株式会社インテージと株式会社データセクションに依頼し、2017年7月24日16:20『禅ブランディング 効果測定調査報告会—他大学と比較した駒澤大学の現状と課題—』を開催した。

○自己点検・評価 (2017年4月～2018年3月)

・WEBサイトの製作に事業計画策定予定の日程を超えてしまったことは改善しなければならない。
・本学のステークホルダーである本学学生、本学教職員並びに無関心層に向けた発信事業に関する企画として以下を実施した。

① 2017年7月24日『禅ブランディング 効果測定調査報告会—他大学と比較した駒澤大学の現状と課題—』(株式会社インテージ、株式会社データセクションによる市場調査報告)

② 2018年1月10日「『禅と心』の国際的学際的研究に向けた視座」としてシンポジウムを開催。講師として曹洞宗国際センター所長 藤田一照氏による記念講演『禅の国際的展開におけるチャンスと課題』(現代社会チームとの共催)

①においては、一般の人に駒澤大学を想起させるものはないこと、禅と駒澤大学の関係性があまり認識されていないという現状認識を得、②においては相手のニーズを知り相手に合わせた発信を行う柔軟性、無関心層を巻き込む企画力と継続性という問題解決へのヒントを得た。

○将来に向けた発展方策

2017年度の<無関心層>に対する喚起(ATENTION)に注力した企画を、2018年度に実施し、さらに次の段階へと関心層のターゲットを次第に高く設定する企画を検討する。

2019年度は2017年度、2018年度の事業内容(企画等)を継承し、随時WEBサイトの更新を行うとともに、シンポジウムをはじめとした様々な企画を実施する。加えて、世界発信のターゲットを2018年度から更に研究者層といった高度な専門家にもアクセスしていただけるような専門的なコンテンツの内容を充実させる。また、両本山を含めた国内の曹洞宗寺院との連携体制の構築を検討する。その他、2017年度に実施したマーケット調査を再度行い、発信事業の効果を検証する。

2020年度(最終年度)は、最終年度として、東京オリンピック開催を契機としたグローバルな発信に注力する。5年間の本プロジェクトの総括として、国際シンポジウムなどを企画し、グローバルなレベルで本事業の成果を発表するイベントを実施する。また、5年間の成果をわかりやすいテキストとして書籍にまとめ、出版する計画である。前年度に検討された国内寺院との連携体制を踏まえたプログラムの実施や、国外他機関等との連携体制の構築に臨む。

事務部門

代表者	教育・研究担当副学長	日笠完治
関係部署	禅文化歴史博物館、総務部広報課、教務部研究推進課	

●5ヶ年の事業内容・目標

①4 研究チームのサポート・5 チームリーダー連絡会の運営 (禅文化歴史博物館)

「曹洞禅とその源流研究チーム」「禅の受容と展開研究チーム」「禅による人の体と心研究チーム」「禅と現代社会研究チーム」それぞれの活動の事務的側面を担う。原則として隔週で実施される5チームリーダー連絡会を円滑に運営する。チーム合同で実施する計画の際には、広報活動などの支援も行なう。

②禅ブランディング発信チームのサポート (主：教務部研究推進課、副：総務部広報課)

禅ブランディング発信チームの活動の事務的側面を担う。禅ブランディング専用ウェブサイト等の運営等における(株)電通との調整等を事務的側面からサポートする。

③大学ホームページへのニュースリリース、プレス対応 (総務部広報課)

上記①②などの情報を、大学ホームページへのリンクや記事の更新、学外からの問い合わせ対応を行う。

④禅ブランディングプロジェクト・チーム会議の運営 (教務部研究推進課)

教育・研究担当副学長をプロジェクトリーダーとするPT会議の運営を行う。併せて、審議内容の学内調整や各チームを横断する事項など、必要に応じて対応する。

⑤禅ブランディング自己点検・評価、及び外部評価 (教務部研究推進課)

前年度自己点検・評価結果の外部評価を受けるとともに、今年度の自己点検・評価、及び外部評価を行う。

⑥禅センター(仮称)の設置準備 (教務部研究推進課、ほか学内関係部局・学部等)

2018年4月を目指し、禅センター(仮称)の設置準備に着手する。関係する事務部門、学部等を含めた設置準備委員会(仮称)を設置して各種検討を行い、その後の学内手続きや施設・設備の整備を実施する。

●事業計画(2017年4月～2018年3月)

①の運営に伴い、新たに派遣職員を採用する。関係各所と調整し、速やかに学内手続きを行う。各研究チームの支援、及び5チームリーダー連絡会の運営を随時行う。

②については、(株)電通との基本契約、及び個別契約に係る手続きを6月末までに完了させる。禅ブランディング事業のホームページ公開に先立ち、学内手続きを行い、以後の調整にも配慮していく。

⑤については、自己点検・評価報告書を3月末までに作成し、4月から5月初旬にかけて外部評価委員に評価いただく。いただいた評価は自己点検・評価委員会で報告を行い、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議、及び研究活動推進委員会の報告を経て、5月末までに大学ホームページで公開する。

⑥については、6月末までに設置準備委員会(仮称)を設置し検討する。検討結果を踏まえ、次年度予算の計上や規程改正等の学内手続きに着手し、必要な施設・設備の整備を行う。

2017年	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
①5 チーム連絡会	派遣職員採用、連絡会の運営は随時対応			
②発信チーム支援	契約締結	ホームページ公開に係る学内手続き		
③HP、プレス対応	随時対応			
④PT 会議運営	随時対応			
⑤点検・評価	前年度の外部評価	必要に応じて委員会を開催		当年度点検・評価
⑥禅センター(仮称)	準備委員会設置	各種検討	予算計上・諸手続	施設・設備の整備

●今後の計画

2018年度以降は担当部署の変更が想定されるものの、各研究に対する支援そのものは継続される。特に、事業の進行に伴い、各研究チームのサポートについて、よりきめ細やかな配慮を要すものと考えられるため、禅文化歴史博物館における派遣職員は継続的に雇用していきたい。

併せて、禅センター（仮称）では、補助事業期間の終了する2021年度以降を見据え、各チームにおける研究の展開・継続に係る検討も行っていく。

●活動報告（2017年4月～2018年3月）

◎会議等

<2016年度>

研究活動推進委員会（7月28日、1月11日開催）、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議（12月21日、3月3日開催）、チームリーダー連絡会（計7回）

<2017年度>

研究活動推進委員会（5月31日、7月26日、10月19日、11月29日開催）、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議（5月1日、5月22日、10月11日、3月9日開催）、チームリーダー連絡会（計26回）

◎Web ページアクセス数

大学 HP 内禅ブランディング特設ページ (<https://www.komazawa-u.ac.jp/zen-branding/>)

2017年1月10日 ～ 3月8日 総アクセス数：5082回

2017年4月1日 ～ 2018年2月28日 総アクセス数：15,565回

◎禅文化歴史博物館の事務組織改編（運営課 禅ブランディング推進係の新設）

当初計画されていた禅センター（仮称）について検討した結果、2018年度より、禅文化歴史博物館の中に禅ブランディング推進係を新設することとなり、事務組織改編に係る学内事務手続きを行った。

◎事業経費に係る学内手続きと予算執行状況の把握

2016年度は約523万円を使用した。2017年度は約3,015万円を使用した。

○自己点検・評価（2017年4月～2018年3月）

- ①学長のリーダーシップのもと、全学的な検討を行うための研究活動推進委員会において、各議題の調整やWG運営サポートなどを、事務局として適切に行うことができた。特に、禅文化歴史博物館を1課2係体制に事務組織改組する学内手続きについて、調整を含めて遺漏なく取り組むことができた。
- ②禅ブランディングプロジェクト・チーム会議や、定期的な5チームリーダー連絡会等の開催に際し、事業を円滑に運営するためのサポートができた。
- ③大学 Web サイト内の禅ブランディング事業特設ページにて、進捗状況、自己点検・評価結果等に関する情報公開を行った。
- ④学内の既存ルール（公的研究費等）に準じて、適切に予算を執行することができた。
- ⑤各研究チームのサポートについて、一部の教員から十分ではなかったとの指摘があった。

○将来に向けた発展方策

- ①②⑤会議の運営方法や組織体制等について、「禅ブランディング推進係」が設置される4月以降に見直しを行い、各チームの状況を把握し、適切なサポートに努める。併せて、各研究・事業チームと事務局の連携体制に係る範囲・枠組みなども再検討し、より効率的な運営体制を構築していく。
- ③発信事業チームが取り組む禅ブランディング専用ホームページの管理・運営を適切にサポートし、ブランドの構築や事業の認知度向上（アクセス数の増加）を図る。
- ④補助金を用いた事業であることを十分に認識し、予算執行に際しては学内ルールの遵守を心がける。